



大洲校だより

柏崎市立大洲小学校 令和7年10月1日号



少人数だからこそ育む「自ら学ぶ力」

校長 古川 康成

大洲小学校では児童数の減少を受け、現在複式学級が編制されています。複式学級とは国の法律に基づき、小学校においては児童の合計人数が一定の基準（原則として16人以下、1年生を含む場合は8人以下）を下回る場合に複数の学年で一つの学級を編制するものです。本校では今年度、5・6年生の合計が16名であるため、この基準に該当し複式学級として編制されています。

複式学級の授業運営には主に二つの伝統的な方法があります。一つは「わたり」と呼ばれる指導法です。これは1時間の授業の中で教師が二つの学年を交互に指導し、一方が指導を受けている間、もう一方は学習や作業を行うというものです。もう一つは「AB年度方式」と呼ばれ、2学年分の学習内容を2年間で履修できるように年間指導計画を工夫し、両学年が一緒に同じ内容を学ぶ時間を取り入れる方法です。これらはいずれもメリットとデメリットがあります。

大洲小学校では、子供たちに各学年で必要とされる学習内容を確実に身に付けさせるため、国語、算数、社会、理科の4教科については複式指導の方法をとらず、学年に分かれ学習しています。教職員の定数は法律で厳格に定められており、余剰人員はいないため、管理職も指導に入り、職員が連携して授業を受け持つ体制を構築することで、当該学年の授業内容の履修が実現できています。私自身も5年生の算数を担当しています。少人数だからこそ一人ひとりの理解状況に目が行き届き、教科書の指導計画にこだわることなく習熟度に合わせて臨機応変に学習を進めることができます。

授業中の子供たちは非常に積極的です。分からないことがあると、「先生、ここが分かりません!」と大きな声で素直に伝え、その疑問をみんなで共有し、「ああでもない、こうでもない」と活発に意見交換を行うので教室はいつも賑やかです。子供たちも、「分からないことは聞けば教えてもらえる」という安心感を持って、意欲的に授業に取り組む姿が見られます。

しかし、このようなきめ細やかな指導体制は一見理想的に見えますが、第三中学校の先生から深く考えさせられる話を伺いました。それは、「大洲小の児童は小学校で非常に丁寧に見ていただいている分、態度は真面目で授業の理解度も高いが、自ら情報を獲得し課題を解決しようという『主体的に学ぶ意欲や力』が弱い傾向にあると感じる」という指摘でした。中学校に進学すると学級の人数も増え、小学校のように分からない箇所を立ち止まって細かく丁寧に教えてもらえる機会は少なくなります。当然、授業で生まれた疑問や課題は自ら進んで調べ、考え、解決していく力が求められます。中学校の先生の言葉はまさに大洲小の子供たちに、この「自ら学ぶ力」の点で課題が見られるのではないかと、いうものでした。

この話を聞いたとき、私自身の高校時代を思い起こしました。私も小学校時代は複式学級、中学校でも少人数で、勉強で分からないことは先生方が丁寧に教えてくれる環境でした。その結果、中学までは宿題をこなす程度の家庭学習でも問題はありませんでした。しかし、高校に入学すると環境が一変し、予習・復習の習慣や、自ら学習を深める姿勢が無かった私は、あっという間に授業についていけなくなりました。要するに、私自身に「自ら学ぶ力」が無かったのです。

第三中学校での指摘を先生方に伝え、大洲小の子供たちをどのように導くべきかを投げ掛けました。その中で私たちの答えの一つとして共有したのが、「子供たちに考える余地をもたせる」という指導スタンスでした。

教育の最終目的の一つは、子供の自立の育成にあります。自立とは、他者からの支配や過度な助けを受けずに、自分自身の力で物事を成し遂げることを意味します。私たちがすぐに答えを与え、手取り足取り教え過ぎるならば、それは子供たちが自ら考え、試行錯誤しながら学び取るという、かけがえのない成長の機会を奪ってしまうことになりかねません。

大洲小学校では少人数という環境を最大限に活かしつつ、子供たち一人ひとりをしっかり見取りながら、子供たち自身が自ら問い、考え、解決に向かえるよう指導していきます。ご家庭での会話の中でも、「あなたは どう考えるの?」「どうしたらできると思う?」と、お子さん自身に考える時間や余白を与えていただければ幸いです。

親と子の健康座談会 「メディア依存症について考えよう」

9月9日(火)の親と子の健康座談会には、4~6年の子供たちとたくさんの保護者の皆様が参加しました。独立行政法人国立病院機構 さいかた医療センター Sai-DAT チーム看護師 高橋 慧 様を講師にお招きして「メディア依存症について考えよう」のテーマのもとご講演をいただきました。

講演をとおして、子供たちと保護者の皆様がメディア依存症の危険性について理解し、子どもたちが自身の生活習慣やメディアの使い方について振り返り、生活習慣の改善につながればと考えています。



インターネットに依存する気持ち

もともとネットやゲームを長時間使っている人は、現実生活で何かつまずきがあると、そのまま現実から退却して、もともと好きだったゲーム・ネットの世界で長時間過ごすようになります。やがて、現実生活で「**孤独**」になっていきます。

初めは楽しかったメディアを、「**つらい現実を忘れるため**」、「**ダメな自分を見なくていいように**」使うようになります。

中学校進学を機に、うまくいかなくて依存に陥る人もいます。子ども達が困難に直面した時にメディアに頼るのではなく、現実生活で信頼できる人に相談できるような環境づくりをしていく必要があります。



予防のために

ルールを親子で一緒に決めて守る。メディア以外の楽しみを見つける。子どもと大人、それぞれ気をつけることがあります。

子ども

- ・メディアを使うルールを決める。寝る、起きる時間を守る。
- ・メディア機器を布団に持ち込まない。
- ・課金はお小遣いの範囲で(前借りは×)。

大人

- ・使い始めが肝心。ルールを決めて親も守る。
- ・親の名義で購入し、子どもに貸し出す。
- ・子どもの利用内容に親が関心を示す。

→子どもは何が楽しくてメディアを使っているのか、知らない保護者も多い。



6年生 親善陸上大会

9月26日(金)に柏崎市営陸上競技場を会場に柏崎市・刈羽郡小学生親善陸上大会が行われました。

5・6年生の子供たちは、夏休み明けから100m走や走り幅跳びなどの種目練習に取り組んできました。大会当日競技に参加するのは6年生のみでしたが、5年生は来年度の下見も兼ねて大会当日はサポートと応援ということで帯同しました。

大会当日は、晴天に恵まれました。6年生の子供たちは今までの練習の成果を発揮、5年生の子供たちは精一杯の声援を送っていました。



※ 令和8年度本格実施の地域クラブに関する情報



10月の主な予定

- 1日(水) 5年生 小・中学生音楽鑑賞会
- 6日(月) 諸費引き落とし日
- 7日(火) おおすスポーツフェスティバル
- 10日(金) 前期終業式
- 13日(月) **スポーツの日**
- 14日(火) **秋季休業日**
- 15日(水) 後期始業式
- 23日(木) 代表委員会

- 24日(金) あげほ祭り前日準備
教育委員訪問
- 25日(土) あげほ祭り
PTA 会則改正審議・議決
- 27日(月) **振替休業日**
- 28日(火) 移動図書館
- 29日(水) 宮崎スクールカウンセラー訪問日(午後)
5年生 理科校外学習(川の学習)
3年生 ブルボンメタバース工場見学
- 31日(金) 6年生 理科校外学習(地層見学)